

12月5日学連稽古会感想

12月5日に参加させて頂いた東京学連剣友連合会の稽古会は、コロナ禍から初めて、そして二回目の学連稽古でした。最初は一橋大学卒、三井住友海上本社剣道場百錬館で知り合った工藤敏彦様のご紹介で参りました。今の情勢で大人数の稽古場所確保は大変難しい中、綾瀬武道館で稽古会を行った事は誠にありがたいと存じます。

久しぶりに会った大学の先輩方や先生方などと交剣、皆様が水を得た魚の様に生き生きと稽古をしていた姿は印象的でした。剣道祭の雰囲気に近いとふと思いました。年齢、性別に関わらず切磋琢磨できるのは剣道しかないでしょう。

偶に「剣道は何処で始まったんですか」と聞かれると、どう答えたら良いのか迷います。初めて木刀を持ったのは大学の時代。しかし、イギリスのオクスフォード大学は自立の剣道部がないです。地元にある新設大学（オクスフォード・ブルックス・ユニバーシティ）とオクスフォード大学連合で設立した剣道クラブに入会しました。それは三年生の時の一学期のみ、スポーツジャジーで摺り足や形の紹介ぐらいの初心者コースでした。卒業した後、シンガポールに帰国、新聞記者の仕事で忙しく剣道を正式に始めようとしたのを一旦諦めましたが、2008年に経済通信新聞記者の仕事で日本に転勤を機に、5年間眠った木刀と来日。東京に着いた一か月後、町道場に入門しました。

「なぜ剣道を始めたのか？」正直、理由は覚えていません。お兄さんが中学生の時に柔道をやりました。それが武道に興味を沸かしたかもしれません。ただし、柔道が痛そうで防具がある剣道を選びました。今までやってきたスポーツはバスケット、ボート、それからドラゴンボート。つまり、すべてチームスポーツでした。もちろん、チームと一緒に練習して、一緒に試合に向かって、チームメイトがいることで楽しくて心強い。しかし、自分の力で勝負が決まるスポーツやりたい気持ちもありました。剣道なら自分で勝負をつけられるし、団体でも試合に出られると思ったので。

当然、完全に自分の力ではありません。相手がいるからこそ成り立つ、打って反省、打たれて感謝。ガッツポーズを禁止している剣道は、唯一オリンピック精神を守っている競技。ですが、今のオリンピックには向いてない。

生涯剣道、交剣知愛はゴールドメダルよりお宝でしょう。

また、皆様との稽古の機会を祈ります。

戴 晶莉（ダイ チンリ）

板橋区剣道連盟 所属